

○4番（鈴木英明君） 皆さん、おはようございます。議席番号4番、鈴木英明です。傍聴席の皆様、本日は年末のお忙しい中、傍聴にお越しいただきましてありがとうございます。

一般質問に入る前に、今定例会は橋本町長の2期目、最後の定例会ということですので、まだ任期まで数か月ございますが、町長、この4年間大変お疲れさまでした。

それでは、議長により発言を許可いただきましたので、通告に従って3項目、5点を質問させていただきます。

まず、1項目めの介護福祉についての1点目のケアラー支援についてですが、皆さんも最近テレビや新聞等でケアラーという言葉を目にするのではないかと思います。ケアラーとは、介護や看病、療育が必要な家族や近親者を無償でサポートする人のことで、高齢化社会が進む中、日本では増加傾向にあり、今後さらに増えていくことが予想されているそうです。境町高齢者福祉計画第8期介護保険事業計画の統計データから見える課題として、当町の総人口は国全体の傾向と同様、減少傾向にあります。人口構造を見ると、団塊の世代が75歳となる令和7年が節目となり、後期高齢者人口が増えていくと予想されていますと記されています。それに伴い、介護が必要になる方や高齢者を介護するケアラーも増加するのではないかと考えます。当町のケアラー支援についての取組をお伺いします。

次に、2点目の第1回認知症カフェが開催されましたが、今後どのように運営していくのか、当町の考えをお伺いします。令和元年第4回の定例会で質問させていただきました新オレンジプランの中の認知症の介護者への支援として、認知症の人や、その家族が地域の人や専門家と相互に共有し、お互いに理解し合う認知症カフェが11月10日に古河市の認知症の家族の会の代表である岩下太郎様にも参加していただき、開催されました。私も参加させていただきました。

そこで、参加された町民の方々からもいろいろとお話をお聞きしまして、前回の私の一般質問で、町長は認知症カフェをただつくっただけでは意味がない。年に何回かやりました。ただ、やっていますみたいなことにならないような認知症カフェをつくっていきたいと答弁されましたけれども、私もそのように考えます。

そこで、茨城県の認知症カフェの運営団体を調べてみますと、医療法人や地域包括支援センター、ボランティアグループ等が多く見受けられます。当町はどのように考えているかお伺いします。

次に、2項目めの農業振興についてお伺いします。近年、米価下落に影響を受けている農家に対しての事業継続の支援についてお伺いします。近年、米の消費量の減少や新型コロナウイルス感染症の拡大によって外食産業を中心とした国の需要減少により、米価下落の影響を受けた農家さんが当町においても多くいるのではないのでしょうか。農林水産省の2020年農林業センサスによると、境町の総農家数は990戸あり、そのうち自給的農家387戸、販売農家数603戸で、水稻の作付面積は750ヘクタールとなっています。この作付面積については、農家さんの自己申告によるものだそうです。販売農家率は全国で58.8%、茨城では61.2%、境町は60.9%となっております。当町においては現在ふるさと納税の還元策の一つ

として、米生産農家支援事業で、玄米30キロを先着1,000袋1万円で買取り事業を実施しています。これについては買い取ってもらった農家さんに聞くと、大変ありがたいという話を聞きます。今年の玄米30キロの相場は5,000円を割っています。そこで、当町の米生産農家の次期作支援についてお伺いします。

3項目めの町政運営と次期町長選挙についてお伺いします。2014年に橋本町長が町長に就任され、橋本町政も早いもので2期8年を終えようとしています。これまで境町のトップリーダーとして当町の財政状況の改善、新しい財源の開拓などといった様々な課題の解決にご尽力されてこられたと思います。財政状況の改善については、町の将来負担比率は就任当時184.1%、現在令和2年度までの7年間で95.3%削減し、88.8%となりました。財政調整基金やふるさと納税などの基金も7年間で25億8,000万円増加し、32億9,000万円になりました。新しい財源の開拓については、維持管理ゼロの公共投資の境町モデルの確立、そういった今までの町政運営に対して、ご自身でどのように総括されているのかお伺いします。

次期町長選挙の決意については、11月25日に正式に出馬表明し、その内容については翌日の新聞等に掲載されていました。その決意表明は、町民の皆さんが最も知りたいことなのではないかと思います。前回の選挙と同じように、今回も私たち町議会12名全員で推薦をさせていただきますので、改めて出馬表明の決意をお願いします。

私の質問は以上3項目、5点です。これで1回目の質問を終わります。

○議長（倉持 功君） 最初に、介護福祉についての質問に対する答弁を求めます。

福祉部長。

〔福祉部長 石塚孝志君登壇〕

○福祉部長（石塚孝志君） それでは、鈴木議員の1項目め、介護福祉についての1点目、ケアラー支援の当町の取組についてとのご質問にお答えいたします。

ケアラー支援とは、高齢者及び身体的または精神上的の障害等により、介護や支援を必要とする親族や身近な人を支援する方の負担を軽減するため、様々な支援を行うものでございます。当町の取組につきましては、介護保険事業計画の中で可能な限り住み慣れた地域で高齢者が自立した生活が送れることができるよう、その人の状態に応じて、医療と介護予防を提供することとして介護認定を受けている1,060名中、直近の10月の1か月間では、633名の方がデイサービス等の通所介護やヘルパー利用の訪問介護、介護用品購入補助、レンタル補助等のサービスを利用していただいております。この利用により、各家庭の介護や看護されている方の負担軽減を図っているところでございます。

また、在宅介護支援につきましては、在宅介護慰労金支給事業を実施しております。要介護3以上と認定された高齢者で介護サービスを利用しないで在宅で介護をしているご家族に介護慰労金として年額3万円を支給させていただいております。令和元年度は11件、33万円を、令和2年度は介護サービスの開始利用者が増加して、在宅介護が減ったことから、2件、6万円を支給させていただきました。なお、その他在宅で寝たきりの高齢者などを介護している家庭の経済的負担を軽減する事業として、紙おむつの購入助成事業を実施してお

ります。月額5,000円を上限とさせていただき、令和2年度は19人に助成をさせていただきました。

また、県では議員提案により、18歳未満のヤングケアラーを含むケアラーを社会全体で支えようと、ケアラー支援を義務として盛り込んだ条例案が提出されております。この条例の制定を踏まえ、町としても県や関係機関と連携を図り、必要な支援に努めるとともに、引き続き介護を必要とする方や、そのご家族を支援するため、各種事業に取り組んでまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

続きまして、2点目の第1回認知症カフェが開催されましたが、今後どのように運営していくのか、当町の考え方を伺うについてお答えいたします。認知症カフェの設置の在り方につきましては、令和元年12月定例会においても、鈴木議員よりご質問をいただいたところでございます。この答弁の中でしっかりとした議論をして、令和2年度中には設置をさせていただき旨の答弁をさせていただき、準備を進めておりました。ただ、今般のコロナ禍により、人と人との接触を避けて感染防止策を徹底する必要があったことから、国の緊急事態宣言の解除を待って11月10日に第1回目の認知症カフェを開催し、看護師、ケアマネジャー等の介護専門職、介護を必要としている方や、その家族など計14名の皆様に参加をいただきました。この中で町で作成した認知症を正しく理解してサポートする方法についてのパンフレットを説明させていただくとともに、実際にご自宅で家族の介護をされている方の体験談をお話いただき、参加者の気持ちに寄り添ったカフェを開催することができました。参加者からは認知症について知識を深めることができました。認知症の方への接し方が学べて優しい気持ちになれましたなどの感想をいただいております。

また、町内小中学校では、生活や総合学習等の時間の中で、事業の一環として認知症サポーター講座を実施して、認知症を正しく理解して、対応できるよう啓発に努めております。コロナ禍前の平成30年度には420名の児童生徒がこの講座を受講しております。今後コロナの状況を確認しながら、夏休み期間等の利用により、この子供たちを含めた認知症カフェを開催できるよう調整をしてまいりたいと考えております。

今後議員の皆様や認知症に理解のある方々からご意見などをいただきながら、参加者に寄り添った認知症カフェを開催してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

鈴木英明君。

○4番（鈴木英明君） 答弁ありがとうございました。再質問させていただきます。

境町の高齢者福祉計画第8期介護保険事業計画の中で、在宅介護の実態調査したというところの項目で、主な介護者の年齢についてお伺いしたいのですが、各年代別で介護者の人数どれくらいいるのか、教えていただければ。

○議長（倉持 功君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（張替克己君） それでは、鈴木議員さんの再質問にお答えさせていただきます。

主な介護者の年齢につきましては、20代未満につきましてはゼロ、20代につきましては0.9%、1名です。それから、30代につきましても1名の方という形になっております。40代以降については23.7%、それから60代につきましては37.7%と、そういうふうな年齢構成になってございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

鈴木英明君。

○4番（鈴木英明君） 質問ではないのですが、先ほども県議会のほうでヤングケアラーの話が出ましたけれども、11月29日の新聞にも書いてありましたので、市町村や大井川知事の答弁の中で、市町村や支援機関における支援の在り方、関係機関の連携と検討とか書いてあったのですが、当町もぜひともケアラーの方々が社会から孤立しないで、この町で住み続けられるようにやっていっていただきたいと思います。

ケアラー支援については、議長、それで大丈夫です。

○議長（倉持 功君） 続きまして、認知症カフェですか。

〔「はい」と言う者あり〕

○議長（倉持 功君） 認知症カフェに対する再質問ありますか。

はい。

○4番（鈴木英明君） これも再質問ではないのですが、認知症に関する相談窓口を知っていますかという調査の中で、回答で69.8%と約7割の人がそういった窓口を知らないというような回答が来ているので、その辺も今後周知徹底していただきたいと思いますので、こちらも要望としてお願いします。

○議長（倉持 功君） それでは、これで介護福祉についての質問を終わります。

次に、農業振興についての質問に対する答弁を求めます。

建設農政部長。

〔建設農政部長 松本隆弘君登壇〕

○建設農政部長（松本隆弘君） 皆さん、改めましておはようございます。鈴木議員の2項目、近年の米価下落に影響を受けている農家に対しての事業継続の支援について伺うとのご質問にお答えいたします。

当町では、水田台帳に記載されております1,727名のうち、米の生産調整に参加する水稻耕作者は1,341名であり、生産数量目標としまして、712ヘクタールが県農業再生協議会より示されておりましたが、今年度作付されました主食用米面積が682ヘクタールであります。稲作経営の安定や需要に応じた米生産の推進のために、境町農業再生協議会では、集荷業者である方針作成者と連携して国の交付金拡大による新規需要米等への転換を推進した結果、主食用米の生産面積は昨年より23ヘクタール減少し、県から示された作付目標面積の範囲

に収まり、現状でいわゆる転作を達成している状況となっております。

しかしながら、人口や米消費の減少及び全国的な生産過剰やコロナ禍における需要の低迷などが理由で、昨年来より危惧されておりました米価の下落が現実のものとなり、現状の1俵に対する概算金は昨年と比較しまして81.6%であり、2,000円以上の安値で取引され、生産者にとっては大きな痛手となっております。

具体的な支援の現状ですが、大規模生産者におきましては、個人差はありますが、国より収入保険やならし対策による補填も考えられるとともに、一方ではパックライスの原料として、株式会社舞台ファームに昨年より12トン多い48トンを通常の価格より高く買い上げていただいているところでございます。1パック180グラム入りのパックライスにつきましては、平成29年度より舞台ファームと連携して現在までに77万7,720パック、そのうち今年度は11月現在で21万6,200パックが生産され、ふるさと納税の返礼品などに利用しております。

また、中小規模の生産者支援としましては、平成27年度より米生産農家支援事業としまして、ふるさと納税返礼品に活用するための玄米30キログラムを1万円で1農家20袋までとしまして、1,000袋買い上げることで、9月16日に先着順にて募集したところ、73名の方から1,340袋の応募があり、全量を買取りさせていただいております。

そのほか、現状では福島県において生産意欲の維持を目的に、来年生産用の種子購入費用1キロ当たり150円の補助が検討されておりますが、茨城県においては現在のところ特別な支援がある状況ではありません。

今後につきましては、現在の取組に加え、人口減少などによる需要減少が明らかなことから、米の価格が従来に戻る事が予想できないため、舞台ファームをはじめとした先駆的農業者と連携し、六次産業化による加工品として付加価値をつける取組や、生産者にとって安定した有利な販売ができる出口の創設を検討していかなければならないと考えておりますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

鈴木英明君。

○4番（鈴木英明君） 答弁ありがとうございました。

ちょっと近隣の市町村の取組について調べてみたのですが、埼玉県のちょっと例なのではございますが、春日部や加須、幸手市が稲作農家次期作支援を取組してございまして、これ加須の例なのではございますが、10アール当たり3,500円、上限100万円を、それを種苗費相当額で補助するというような形で、そういった事業をやっているのですが、一般的に10アール当たり種もみは4キロ使うようなのです。それで、種もみの価格はコシヒカリの消毒済みで1キロ650円かかるようなのですけれども、茨城県でも恐らくこのような取組している自治体もあるのではないかと思います。当町においてもこれ3,500円までとはいかなくても、1,000円とか、例えば1,500円とか、そういった感じでこういった支援の取組を入れてみてはどうかとちょっと考えたのですが、その辺に対して答弁をお願いし

ます。

○議長（倉持 功君） 町長，橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは，鈴木議員さんのご質問にお答えをします。

こういったものも議会の皆さんで例えば米の下落，今年はすごいです。これがでは来年復活するか。例えばコロナだったから，では飲食店が売れなかったから安いのかというと，そうではなくなる可能性が高いです。僕は就任以来，米の価格はもう必ず下落するという下に，例の国の政策はなくなりましたから，あれでもう間違いなく下がっていく。さらには茨城の米よりは，本当に東北の米，北海道の米，そういったものが高くて，やっぱり競争力でも負けてしまう。ここを何とかしなくてはならないという思いで8年間やってまいりました。それが実は先ほどのライスパックであり，それから特別栽培米なのです。なので，4Hクラブの皆さんにも，そしていろいろな農家さんにもご協力をいただいて，付加価値を上げよう。今までお米だったものが，例えば古米になった瞬間にぐっともうもっと安くなるわけです。古米になる前にライスパックにして，そうすると賞味期限も上がる。価値も上がる。所得も増える。そういう思いで皆さんに賛同いただいてやってきたのです。なので，やはりこの農産物というのは，ただ作りました。では安くなったから補助するとか，保険を使いましょうとかではなく，やはり付加価値のあるものをしっかり作って，それをその価格でしっかりと買い取っていただく。その買い取っていただくところまでも僕ら自治体がしっかりと営業して獲得していく。もういいものを作ったから，あとは自分たちで売らなさいではなく，我々も一緒にいいものを東京とかレストランとかに売っていく，適正な価格でと。それがやはり農業のこれからのあるべき姿だなという思いでやってきたというのが境町のスタイルであります。

ただ，そうはいっても，先ほど言ったように，米の下落は今年は非常に大きくありますので，ただ，そういった中でまだどこからも要望なんかはいただいているものから，大体普通は要望いただいて，皆さんと話しして，それで例えばさっきの種もみは補助する，もしくは今の下落に補助するとやるのですけれども，全く要望を受けていないものから，ぜひ議会の皆さんと我々にそういった形で，加須市でもやっている。春日部でもやっている。福島県もやっています。本当は福島県みたいに全体やるものですから，茨城県が茨城県は米どころですから，茨城県の農家に対策としてやっていただくというのが本筋ではあるなとは思っていますが，そうはいっても，それが来るまでの間町が独自にやってもいいのではないかと，そういうのは別に思いますので，ぜひこの一般質問終わった後にでも，議員の皆様方，いろいろ相談していただいて，そして生産組合だとか，そういったところからも聞き取りしていただいて，どういった形で，そして幾らぐらいが一番いいのかということでご検討いただければ，町としては全然しっかりとフォローしていくというか，町としては全然応援していくという立場ではありますので，ぜひそういったところも皆さんとともにやってくればと思っていますので，今ここでこれ幾らでやるとかではなく，皆さんとともに，一番いいのは農家さんです。農家の皆さんが一番いい形で，どれが一番いいのかというのを議

論していただいて、町でそれをやっていくという形になればいいなというふうに思っておりますので、後ろ向きではなく、前向きな答弁でありますので、ぜひ皆さんとそういったところを議論、議論というか、詰めさせていただければと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

〔「はい、オーケーです」と言う者あり〕

○議長（倉持 功君） これで農業振興についての質問を終わります。

次に、町政運営と次期町長選挙についての質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕君。

〔町長 橋本正裕君登壇〕

○議長（倉持 功君） 今、資料を配りますので、配って結構です。

○町長（橋本正裕君） それでは、鈴木議員さんのご質問にお答えをさせていただきます。

その前に議員さんと傍聴の皆さんに今まで8年間の成果のいつものこのアカウントビリティーと、それと今後5年の財政予測ということで、最新版ができておりますので、こちらと配らせていただいて、まずもって議員の皆様方、鈴木議員はじめ皆様方には改めて感謝と御礼を申し上げます。そして、傍聴の皆様にも感謝と御礼を申し上げます。そして、ここに、こちら側に座っている職員の皆さんにも改めて感謝と御礼を申し上げたいなというふうに思っております。

2期8年間やらせていただいたわけでありまして、数値は皆さんご存じのとおりでございますし、様々なことをやるのに、やはり本当に僕が大変だったと言うよりは、周りの皆さん大変だったというふうに思っておりますし、職員も昔は僕も職員でしたけれども、代休取るのに、実際にその日は町なかにいると暇なのだなと言われるので、家にいるか、よそに行くかとか、そういう時代でありました。今は町なか歩くと、職員頑張っているよと、そういう声を非常に聞くようになりました。そして、職員を褒めてやってくれ、町長と。怒らずに職員褒めてやってくれと、そういう声を非常に聞くようになりました。非常に変わったのかなというふうに思っています。

2期8年、やはり私は財政の再建、それから人口の増加政策、そして人の創生、この3つを柱としてこの8年間やらせていただきました。財政再建については、先ほど鈴木議員さんからもありました。将来負担比率が180%を超えている自治体ということで、私も議員でありましたから、当時180%を超えているけれども、大丈夫かという質問をさせていただきました。当時は夕張の半分だから大丈夫だと言われてしまいました。そのときに僕も突っ込みが足りなかったなと思うのは、全国の順位を聞けばよかったです。1,741市町村で一番後ろが夕張です。境町はどれぐらいかという、実は後ろから30番目ぐらいだったわけです。財政破綻宣言を出した富津市、千葉県ですけども、富津市は後ろから90番目ぐらいだったわけです。だから、やっぱりいかに境町の借金の比率が多かったか。それは僕は誰が悪いと言うのではなくて、昭和42年からですから、僕が生まれる前からずっと借金増えていたのです。

ですので、誰かがと言うよりは、やっぱり高度成長期の中で、公共施設に投資をする。いろんなものに投資をする。インフラに投資をする。それをやってきて、借金が積み重なってきた。それが境町の8年前の姿だったのかなというふうに思っています。おかげさまで、借金も1年目減らしたときは信じてもらえなくて、2年、3年と減らすと、ああ、借金って減るのだなと住民の皆さんにもご理解いただいて、おかげさまで8年、今年も減る見込みでありますので、8年連続で借金が減る見込みであります。数値もおかげさまで184から88.8と半減をすところまで来ました。しかし、ここについてもまだ全国平均の2.5倍ぐらいの借金の比率ですから、これをまだまだ減らさなくてはならないというふうに考えております。

そして、人口に対しても数値で出てまいりました。ちょうど国勢調査があったものですから、前の5年間、この5年間で1,200人減っていたのです。ところが、今回のこの直近の国勢調査は309人の減ということで、4分の1になりました。やはりそれはいろいろな政策が奏功してきたのかなと。駅がない町でありますから、誰も引っ越してこないです。流出をするのが境町の現状でした。それが境町に住んでいただける。直近この5年間のうち4年間ぐらいは境町から引っ越していってしまう人と境町へ引っ越してくる人の差を社会増減といいますけれども、社会増でいますし、現在も非常に多くの方々に境町に引っ越してきていただいておりますし、境町の親御さんから聞くと、娘たちが帰ってくるというのです。帰ってくるというから、シングルになって帰ってきてしまうのかなと思って聞くと、そうではない。旦那さん連れて帰ってくるというのです。もう境町のほうが子育てするにはいいのだというのが非常に随分伝わってきていて、古河市の方でありましたけれども、古河市の娘さんでありましたけれども、今度旦那さんと子供連れて境に帰ってくると、そんな話も聞きました。非常にそういった意味では、議会の皆様のご理解いただいて、様々な政策、結構お金使っています。それでもやらせていただいた効果はこうやって出てきているのかなというふうに思っております。

そして、先ほどこちょっと話しましたがけれども、人の創生、こちらはやっぱり市町村長、町長は6期、うちのじいさんはそうですけれども、6期やったら長いと言われます。やっぱり役場の職員さんというのは40年働くわけです。やっぱり役場の職員さんが優秀であれば、この町は安泰である。誰が町長になっても、役場の職員さんがこれは町長、やらなくてはいけない政策だよ。なくしてはいけない政策だよ。それをしっかり言えば、この町は持続可能だというふうに思っていて、今まで観光庁や中央省庁、県の市町村課とか、国の外郭団体に32名の職員を派遣をしてまいりました。

さらには、必ずよく言われたのが、隣の課のことは分からないというのです。建設課と福祉課があったとすれば、建設課の事業は福祉課の職員さんは分からないです。逆に福祉課の仕事を税務課の職員さん分からなかったり、やっぱり隣の課って分からないのです。でも、住民の皆さんって役場の職員だから、職員に言えば分かると思って、道路のことで何でも言うではないですか。でも、そこが実は今まで縦割りだったのです。なので、僕この8年間必ず視察研修会だとか、行政報告やる際には、職員さん5人入れて、230人いますから、5



人ずつ入れて境町の事業の際にはみんなに知っていただきました。今は多分ホッケー場ができたよと言われれば、ああ、あそこはこうなっているのだよと言える職員が増えたのではないかなと思います。今までは知らないから、「いや、造ったけど、お金大丈夫なのかな」とか、そう思う職員がいっぱいいたのではないかなと思います。でも、今はそういったことまで財源をしっかりと説明して、職員さんにも言っているものですから、そういったところも分かるのかなと思っています。ただ、残念なのはやはりコロナです。コロナで2年間行政報告会できなかったものですから、地元の地域の皆さんと懇談をすることが2年間できませんでした。そして、ようやく開いたものですから、うちの部課長たちにもあの新しい施設みんな見てもらいました。行ったことがないという部課長がいたものですから、やっぱりそうやって役所の職員さん、住民の皆さん、区長会の皆さん、いろんな団体の皆さんがみんな共通認識で町をよくしていく。それがこの町の基本になっているのかなと思っています。

ですので、任期8年、様々なことをやらせていただきましたけれども、僕一人の力ではなくて、もう議会をはじめ住民の皆さん、職員の皆さんのおかげでこういったことができたのかなというふうに思っております。ちょうど2期8年、総括どうだというので、前回のチラシ持ってきました。前回のチラシは、ちょうど82%公約の達成と書いたのです。中を見てみると、この公約のうち100%実は達成しています。企業版のふるさと納税だったり、企業誘致だったり、高速バスの誘致だったり、人口のことだったり、財政だったり、それから英語教育、ふるさと納税、児童クラブ、それからパッキライスをつくるとか、アルゼンチンのチームの合宿誘致とか、ここ実は100%できているのですけれども、100と書けないものですから、今回チラシには90以上と書かせていただきましたけれども、こういうのもやっぱりいつも議会の皆さんに説明して、皆さんに同意いただいてからやっているのです。やっぱり町長がやりたいよと言って、勝手に進んでいってしまうと、できないことが多いのだけれども、やっぱりもう議会の皆さんに説明して、これならいいだろうというところでやらせていただいているので、こうやって実現ができたのかなというふうに思っています。

自動運転車とか派手なものですから、ああいった派手なことばかり言われてしまうのですけれども、やっぱりこの8年思い浮かべると、関東・東北豪雨があり、このちょうど土手までの間全部潜ってしまったのです。稲尾ではやっぱり1名の方が亡くなって、非常に大きな災害でありました。あそこからの復興で、本当に坂東総合高校さんや、それから総和工業さんに協定させていただいて、今、今度八千代高校もさせていただきましたけれども、境町の人をやっぱりもし利根川が切れたときには、九十数%潜ってしまうものですから、外に避難していただかなくてはならない。ちょうど今、何か日曜日の「日本沈没」を見ていると、見られている方いらっしゃいますか。鈴木議員さんも。本当に外に行ってもらわなくてはならないのです。だから、本当に国民の理解が大変なときに、僕はこの町民の皆さんが理解させていただいて、今日は静地区の皆さん多いですけども、本当に静地区なんかはこの関心度が高くて、アンケートの回答率が90%超えていたり、本当にありがたいなというふうに思っています。そういったこともあって、防災ステーションの設置も決まりました。さらには、

広域避難なんていうこともさせてもらいましたし、やはり境町の一番の課題は水害なのです。この水害をどうやって、水害が起こらないことはできないけれども、この水害を何とか犠牲者を出さない。これが境町の取組のやはりもう一丁目一番地でしたので、今回町なかの雨水排水管もお金かけてやらせていただきましたし、5差路の橋も今度架け替えさせていただきますし、ちょうどいつも木村議員さんから言われていた長井戸、あの周辺の冠水、これもお金をかけてこの2年間で今もう発注をしたところであります。本当にこういったところ、そして国のほうの陳情も、議員の皆様方にやっていただいたおかげで、90センチ今度土手が全部かさ上げになります。利根右岸はやるのですけれども、右岸というのは向こう側です。向こう側はやるのですけれども、左岸はやらしてもらえなかったわけです。今回やはりいろいろな災害を見た上で、左岸側を古河からずっと境を含めて90センチかさ上げしてくれるということで決まりました。間もなく工事に入っていくと思います。本当にそういったことをやらせていただいたというのはありがたいなというふうに思っていますし、そのほかにも本当に様々やらせていただきましたけれども、やはり何度もになってしまいますけれども、皆さんに僕は感謝しかないなというふうに思っています。

実は「やることリスト」ってつくっているのです。細かいこともやっています。例えば国民健康保険を少しでも下げよう。この間下げさせていただきました。そうすると国保ではない方から、国保だけずるいのではないかとと言われるところあるのですけれども、やっぱり健康づくりで国保がかからないようになれば、一般財源入れなくて済みますから、そういった意味でもやらせていただきました。介護保険料、今回据置きをさせていただきました。初めてです。今まで毎回介護保険料上げてきました。千幾らからでしたっけ。1,500円から1,700円ぐらいでした、一番最初。今5,800円です。ずっと上げてきました。7期から8期にかけては据え置きました。実質上の値下げと一緒です。本来ならば六千幾らにしなくてはならないところを5,800円にさせていただきました。こういったことも住民の皆さん、実は気づいていないかもしれないけれども、やはりふるさと納税や、それから企業版のふるさと納税、補助金の確保、さらには様々な境町への寄附、そういったものも活用させていただき、そして行革、全くやっていないわけではないです。ただ、職員の給与は上げさせていただいています。ラスパイレス指数って92%ぐらいだったのを96%を超えるぐらいに上げさせていただいています。そういったこともさせていただきながら、行革もしっかりしてやらせていただいているというのが今の境町なものですから、本当にこの2期8年間、改めて多くの皆様にご感謝と御礼を申し上げたいというふうに思っております。

そして、この3期目の決意ということでありましたけれども、本当に多くのことをさせていただきました。でも、先ほど言ったように、まだまだ財政再建、さらには人口減少を止めなくてはならない。そして、選ばれる町にしなくてはならない。間もなく物流基地、工業団地も発表できる部分が多分多々出てきますし、固定資産税も8年前と、この今後5年後を比べると10億円ぐらい増えると思います。ですので、様々な政策、多分実を結んでくるのですけれども、皆様のお手元にこの5年の財政予測というのをつくらせていただきました。今ま

でこういうのを境町なかったものですから、こういったものもつくらせていただきました。いろんな公共施設造りました。ホッケー場、テニスコート、BMXのコート、ですが、実は今稼ぐ施設になっております。ですので、隈研吾さんで6つ造らせていただきましたけれども、そしてPFIだとか、マンション、移住用の。それから、あそこの雇用促進住宅も買わせていただきましたけれども、今、年間に6,000万円境町に入ってくる仕組みをつくりました。普通逆です。施設造ったら出ていくのです。内海さん、出ていってしまうのです。今までそうでしたよね。道の駅もそうでした。稼がないで、どんどん観光協会に補助を出す一方でした。そういったものを皆さんのおかげで、本当に野口観光協会長、よくやっていただいて、まちづくり公社さんもよくやっていただいて、雇用も3人から130人になりました。1億5,000万の売上げだったのが、今、取扱いだけで26億です。そこまでやらせていただいています。本当に多くの皆さんに助けられて、こうやって運営できているのが今の境町でありますし、実はこの基金の残高の見通し、見てください。1枚めくっていただくと、今、7億、8億だった貯金が32億まで来ました。あと4年たつと58億までいきます。そんなに貯金してどうするのだというぐらいになると思います。ただ、やはり水道とか、様々な老朽化している施設があります。火事があると、赤さびが出るのもそうです。やっぱりああいったものも広域化をしていく中で投資をしなくてはならない部分があるでしょうから、基金は幾らあっても足りないというふうに僕は思っていますし、それから新たな収入策、ここが今の工業団地の開発であったり、さらにはそういった家賃収入で入ってくる仕組みであったり、ですので、雇用促進住宅って、買ったときは2,500万で買ったのです。60戸あるところに17戸しか入っていませんでした。40戸以上余っていました。今は満室です。年間2,500万入ってきます。利回りいいです。そんなことも考えながら、この上がってきたお金を増えている社会保障費に使っていく、そういったことをしっかりできるためにこういったことをさせていただきました。ですので、ふるさと納税というのはいつまである制度だか分かりません。なくなってしまうかもしれない。なので、いつなくなってもいいと思ってやらせてはいただいています。ですので、この5年間の計画は10億ずつです。去年が37億、今年ももう今30億ですので、多分40億いくでしょう。ですが、10億にしてあります。やっぱりここを当てにしないで、しっかりとした財政運営をしていきたいというふうに思っています。ですので、今後4年間であと10億減らして、5年間ですか、142億には借金は減らしたい。

さらには、よく実質公債費比率という実際に返している借金の比率を言われる方がいるのです。実は昔の借金を僕らが返しているわけです。なので、なかなか減ってきませんでした。でも、この今後の4年間見てください。あと4年、5年たったら半分になります。8.7です。ようやくです。受け継いだときは16.1でした。今、大体14になるところです。3年間の平均なものですから、昔の借金返しています。これがあと4年、5年たつと8.7まで減ります。ようやくです。半分になります。やっとなんかというところまで境町が来たのかなと思います。そして、将来負担比率見ると、上見てください。36になります。やっとなんか平均ぐらいになります。この4年間ぜひ皆様方にご理解いただいて、再選をさせていただいて、また

この借金の比率を下げ、そして健全財政の中で住民の皆さんが水道料金が上がらない。介護保険料が上げなくて何とかやっけていける。国民健康保険はこれ国が決める部分もあるのであれなのですけれども、それ以外は上げずにやっけていける。とにかく住民の負担が上がるような町ではなくて、境に住んでいてよかったねと、例えば坂東市の人にも、それから古河の人にも「境の人いいね」と言われるような、そんなまちづくりのためにあと4年間しっかりやるために、どうか頑張っていきたいというふうに思っていますので、議員さん方は本当に12名、またもう本当にこんなことないと思います、ほかの市町村では。2回12名の皆さん全員に、そしてメンバー変わっても、また推薦いただくなんて、こんなことはないと思っています。ですので、やはり皆さんにしっかりとした政策をやっけて、本当に境町の人ここに住んでよかった、ここに移り住んでよかった、そうやって思っただけのような、そんなまちづくりができるようにやっけていきたいというふうに思っていますので、どうかよろしくお願ひ申し上げまして、2期8年の総括と、それから今後4年に対しての決意表明とさせていただきます。ご質問、本当にありがとうございました。

○議長（倉持 功君） 決意表明に対して再質問はございますか。

鈴木英明君。

○4番（鈴木英明君） 町長、答弁ありがとうございました。今の決意表明を傍聴の方も私たちもちょっと聞かせていただいて、次の町長選挙、恐らく町民の人は橋本町長、出るのかなとか、違う道行ってしまうのではないかなとか、そういった話をよく聞かれるのですけれども、今回ちょっとそういった方々も安心したのではないかと思いますので、ちょっと最後になるのですけれども、町長のポスターの言葉をお借りして、町民のためにとことん全力、とことん本気で頑張っけていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○議長（倉持 功君） これで鈴木英明君の一般質問を終わります。